

高精度測位社会プロジェクトについて

目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催時に、訪日外国人を含む誰もがストレスを感じることなく円滑に移動・活動できるストレスフリー社会を実現

課題

- 屋内で人（スマートフォン等）の位置を測位する環境がない。
- 測位ができた結果を表示する屋内の電子地図がない。
（限定的に整備されており、面的サービスが提供できていない。）
- 屋内の地図を整備・更新し、市場へ流通させる仕組み、体制が確立されていない。

サービスイメージ



～東京を、日本を訪れる方に世界最先端、最高級のおもてなしを～

世界に先駆けて高精度な測位環境を実現し、外国人・高齢者・障害者をはじめ誰もがストレスを感じることなくオリンピック・パラリンピックを楽しむためのきめ細かなおもてなしサービスに活用

ロードマップ

※段階的に民間事業者主体に移行

平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	-------------------

空間情報インフラの整備促進

実証実験を通じた環境整備・技術検証

- ・屋内電子地図の試作、屋内測位技術の検証
- ・事務局試作アプリを用いたナビゲーション実証

民間事業者と連携したサービス実証

- ・災害時の情報提供実証
- ・屋内外ナビ実証

東京オリンピック・
パラリンピック
活用検証

多様なサービスの普及展開

- ・事務局アプリによるナビゲーション実証（段差のない/少ないルートでのナビゲーション、英語対応）

- ・民間アプリベンダー等による空間情報インフラの検証・評価

・民間事業者によるアプリ開発 → サービス提供

屋内空間情報インフラに関する基準整備・普及展開

- ・屋内電子地図の標準仕様の検討
- ・屋内地図の整備・更新、流通体制の検討
- ・G空間情報センターにて屋内電子地図の公開

・民間事業者による屋内地図整備

・屋内地図流通プラットフォーム構築

- ・屋内地図作成・測位整備ガイドライン策定
- ・地方都市を含めた普及展開方策検討

高精度
測位社会
プロジェクト